

ツボスミレ

Viola verecunda

スミレ科

名前の由来

「ツボ」は庭のことで、ツボスミレは庭に生えるスミレという意味。「スミレ」は花の形が大工の使う墨つぼに似ているということで、「墨入れ(スミイレ)」から変化した名前だと言われている。漢字名：坪葦



ツボスミレ

形態的特徴

全体に弱々しく見える。高さは初め5~10cmだが、花の後にのびて20cm以上になる。葉はハート形で縁にはまばらにギザギザ(鋸歯)がある。花は白色で8mm程と特に小さく、正面から見るとつぶれて横に広がっているように見える。

花の後ろの「距」と呼ばれるつき出た部分は、丸くぼってりしている(球形に近い)。

類似種：特になし。



ツボスミレ



ツボスミレの花は白く8mm程で、横に広がった感じ



ツボスミレの花。距は白く丸い

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期			■									

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

湿った草地や湿原の縁などで普通に見られる。

分布：国外分布は、南千島・樺太・朝鮮・中国・ウスリー・アムールなど、東アジア。

国内分布は、南西諸島を除いてほぼ全国。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、湿った草地や湿原の縁などで普通に見られる。しばしば群生する。



ツボスミレは、湿ったところに生育する

生活史

開花時期：5月下旬～6月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

タネの付着物（エライオソーム）はアリが好み、巣まで運ぶ。（→興味深い話の項参照）

ウラギンスジヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ミドリヒョウモンの幼虫の食草となっている。



ミドリヒョウモン(裏)。ツボスミレなどのスミレ類を幼虫時の食草とする。

(標本-吉原利之氏所蔵)

興味深い話

■果実は熟すと風で揺れた拍子などで3片に勢いよく裂け、その裂開力によって中の種子をはじき飛ばし、種子をより遠くへ散布させている。

■スミレ類のタネにはアリが好む付着物(エライオソーム)がついており、それを目当てにアリがタネを巣まで運ぶ。アリは巣の中で付着物はずした後、タネそのものはゴミとして巣の外へ運び出す。このように、スミレ類は自力でタネをとばす他に、アリに運ばせることによってより遠く

までタネを分散させている。アリを使ってタネを分散させている種はスミレ類のほかに、カタクリやエンレイソウ類があげられる。

■もともと「ツボスミレ」の名は、庭にはえるスミレの総称として使われていたこともあって、紛らわしいため漢名に由来するニョイスミレ（如意堇）の別名も使われる。如意とは僧侶の持つ仏具の一つで、葉の形がそれに似ていることから由来する。



ツボスミレ



ツボスミレ

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「日本山野草・樹木生態図鑑」沼田眞 全国農村教育協会 1990

「山溪ハンディ図鑑6日本のスミレ」いがりまさし 山と溪谷社 1996

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ